

2017-2019
中期事業計画

光れ!!

Spark for Next 30

— 2022年の創業30周年に向けて —



株式会社インターアクション

光れ!!

The graphic for 'Spark for Next 30' features the text in a large, bold, orange font with a yellow glow and reflection effect. In the background, there are several overlapping, semi-transparent arrows in various colors (pink, blue, green) pointing towards the right, suggesting forward movement and progress.

Spark for Next 30

● 中期ビジョン「光れ！ Spark for next 30」について

- 合言葉は「**光れ!!**」
- 「光」と「精密」にまつわる事業で成長拡大
- 従業員一人ひとりが自ら光り輝き、力を存分に発揮できる組織作り

▶▶ 中期ミッション 1

当社が、2017-2019年、3つの産業革命を支えるキープレイヤーになり、
未来の産業社会の創造に貢献します！！

● 1つ目の産業革命は、IoT産業革命

AI（人工知能）のディープラーニングを活用した自動運転においては、イメージセンサ（自動車の目となる部分）からの画像情報の収集と蓄積が重要となります。高度な技術を要する自動運転では、その目（イメージセンサ）の検査が重要性を増してきています。

イメージセンサの検査においてその良否を判定するためには、太陽の光に似た安定した光が不可欠ですが、当社の光源装置は、高度な光学設計技術により、高精度かつ高速で安定した光の照射を得意としており、この光源装置は現在、世界トップのシェアを獲得しています。

当該資産と技術者のさらなる育成をし、AIを活用した自動運転の実現に貢献致します。

● 2つ目の産業革命は、持続可能な産業社会の実現

地球温暖化対策を話し合う、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）を受けた世界的な環境規制の見直し（強化する方向へ）により、持続的な経済発展のためには、それを支える高効率な空気清浄技術、省エネ技術およびCO₂を排出しない再生可能エネルギーを支える技術が必要性を増してきています。

当社グループでは、株式会社エア・ガズ・テクノスが排ガス処理技術を、株式会社BIJが再生可能エネルギー設備の設計建設のノウハウを積み上げてまいりました。

今後は、更なる技術革新と技術者育成を通し、持続的な社会の発展へ貢献してまいります。

▶▶ 中期ミッション 3

● 3つ目の産業革命は、インダストリー4.0 マスカスタマイゼーション（個別大量生産）の実現

トヨタ生産方式に代表される大量生産時代から、インダストリー4.0と呼ばれる顧客からの個別の要望を即座に調達生産に反映させていく製造業全体の革新が起きつつあります。

インダストリー4.0実現の為には、製品やその生産ラインをバーチャルで設計する技術、企業同士の情報共有、ソフトウェアのアップデート（更新）を通じた製品性能UP、および顧客の製品仕様選定サポート技術が重要となります。

当社グループでは、

1. 当社千葉事業所が、3D設計技術者の育成を通じたバーチャル（モデリング）設計および設計情報を調達生産に反映させる技術の蓄積
2. 株式会社Cuonが、webを活用した情報選別システムの開発
3. 株式会社BIJが、その技術を活用した新ソリューションの実現

に取り組んでまいりました。今後は、さらなる対象事業の技術者の育成と、当社の特徴であるクライアントファーストに徹し、柔軟で新しい発想で新しい未来を創造致します。

▷▷ 新セグメント体制

3つの中期ミッションを受けた、今期からの新セグメント体制について

1. IoT関連事業

2. 環境エネルギー事業

3. インダストリー4.0推進事業

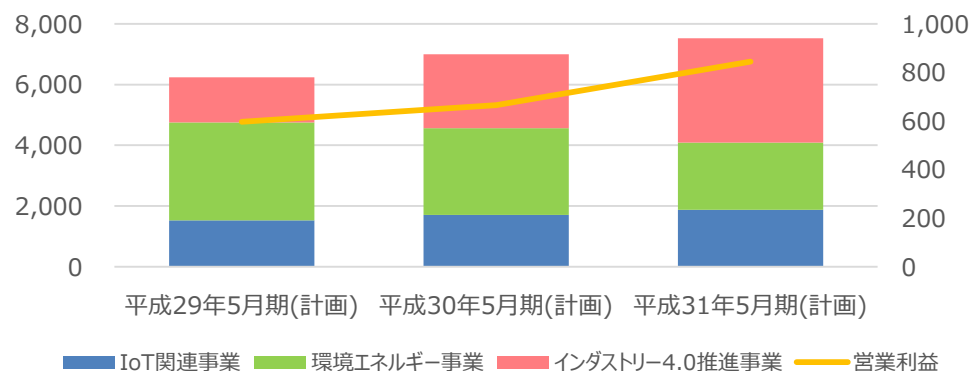
▶▶ 連結 3カ年業績目標



実績

3カ年目標

(単位：百万円)	3カ年目標			
	平成28年5月期	平成29年5月期	平成30年5月期	平成31年5月期
売上高	5,078	6,242	6,996	7,525
営業利益	467	597	665	844
ROE	11.0%	12%	13%	14%
ROIC	6.1%	9%	10%	11%



平成29年5月期 目標
EPS (1株当たり当期純利益)
41.21円
親会社株主に帰属する当期純利益
398百万円

セグメント紹介 1. IoT関連事業



事業テーマ

CCD/C-MOSイメージセンサ向け光源装置と光学設計技術で、
AI（人工知能）のディープラーニングを活用した自動運転等のIoT技術の発展に貢献します。

事業内容

- CCD/CMOSイメージセンサ向け検査用光源装置の開発・設計・製造
- 高度な光学設計技術を活かした瞳モジュールの開発・設計・製造

成長ドライバー

モバイル端末や車載カメラ向けのC-MOSイメージセンサ市場の拡大に伴う需要の取込み

3年目標

	平成29年5月期	平成30年5月期	平成31年5月期
売上	1,530百万円	1,710百万円	1,880百万円
営業利益	629百万円	584百万円	668百万円

市場動向

- C-MOSイメージセンサ市場は5年間で170%の推移での拡大見込み
- C-MOSイメージセンサ市場のシェアを占有している企業が、積極的な設備投資を計画
- 市場成長の過程で自動運転向けのアプリケーションが拡大



セグメント紹介 1. IoT関連事業



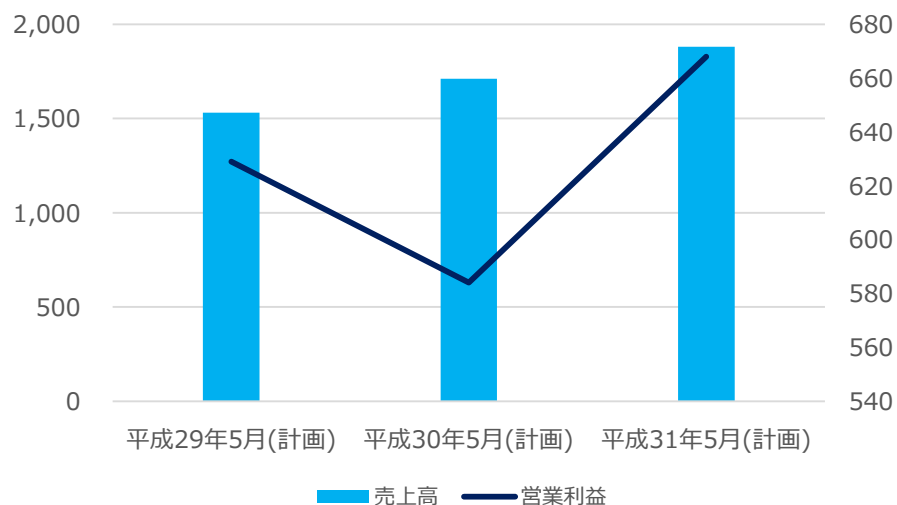
事業戦略

積極的な投資により利益の最大化を図る

可視光だけにとらわれず、目に見えない光を取り扱う技術や、半導体精密機器以外の分野への展開で、事業拡大を目指します。また、新製品の開発と販売を継続的に進め、高い収益性の維持に努めます。

1. C-MOSイメージセンサ市場シェアを占有している顧客に対し、重要な検査の前工程部分に光源装置・瞳モジュールを販売し、シェアを拡大します。また、マーケティング機能の強化により、主要顧客の設備投資時期の把握と早期の対応に努めます。
2. 近赤外線用光源のような特殊環境での使用用途拡大に向けて、現行光源装置をベースとした要素技術を確立します。
3. 多数個測に対応した瞳モジュールの新製品を立ち上げます。

3カ年目標推移



事業成長 キーワード



対象会社

株式会社インターアクション

▷▷ セグメント紹介 2. 環境エネルギー事業



事業テーマ

「環境」と「エネルギー」をテーマに、環境問題の解決へ貢献します。

事業内容

- 印刷機向けの乾燥脱臭装置と排ガス処理装置の開発・設計・製造
- 太陽光発電、バイオマス、風力発電等のシステムや設備の開発・設計



成長ドライバー

アジア諸国を中心とした、環境規制強化に伴う環境関連装置の需要の取込み

3か年目標

	平成29年5月期	平成30年5月期	平成31年5月期
売上	3,221百万円	2,854百万円	2,204百万円
営業利益	50百万円	90百万円	124百万円

市場動向

- 中国・台湾などアジア圏での環境法規制の強化により、排ガス処理装置の需要が高まっている
- 世界の印刷市場の縮小傾向は底打ちとなり、中国を含むアジア諸国での乾燥脱臭装置の潜在需要が高まりつつある
- 大型リチウムイオンバッテリーの需要が自動車や家庭用蓄電システム向けに拡大、バッテリー構成材製造設備向けフローティング・ドライヤへの技術活用の見込み
- COP21の結果を踏まえ、資源エネルギー庁が再生可能エネルギーの導入水準を2030年に22～24%まで引き上げる方針
- 農林水産省が「バイオマス事業化戦略(案)」を発表し、2020年までに地域のバイオマスを活用した事業化推進による地域産業の創出と自立・分散型エネルギー供給体制の強化を実現予定



セグメント紹介 2. 環境エネルギー事業



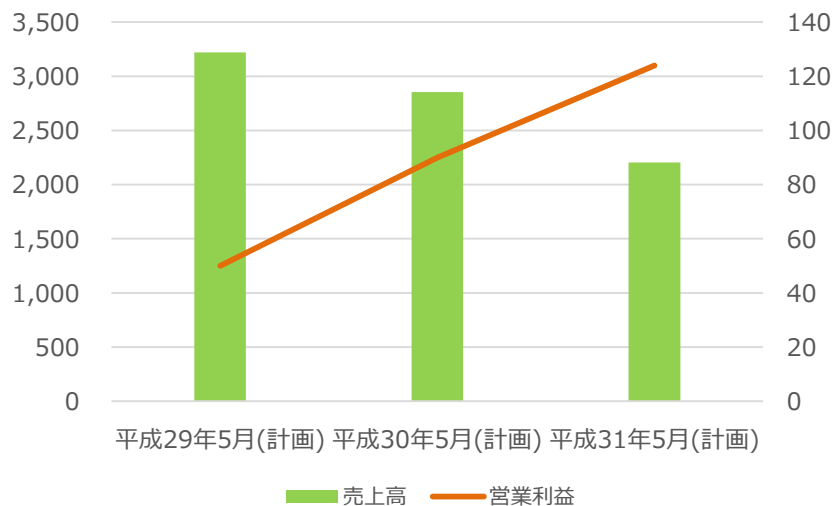
事業戦略

事業の着実な利益計上と安定的なキャッシュフローの創出を目指す

事業の幅を広げるための海外戦略と、既存顧客へのメンテナンスサービスの提供による、安定的収益の獲得に努めます。

1. 環境規制が強化される中国・台湾をはじめとするアジア圏の工場をターゲットに、アンモニア処理を含めた排ガス処理装置・乾燥脱臭装置の需要を取り込み、販路を開拓、販売数の増加を目指します。
2. 乾燥脱臭装置の高効率省エネタイプ、並びにコンパクトタイプの新設計装置を投入し、更新需要を取り込みシェア拡大を図ります。
3. 自動車や家庭用蓄電システム向け大型リチウムイオンバッテリーの製造過程で使用される、フローティング・ドライヤ等の新市場に向け、乾燥脱臭技術の応用を行います。
4. 金融機関との連携により、太陽光発電設備の需要を確実に取り込み、拡販に注力します。
5. 年間100件以上の太陽光発電設備販売実績を活かし、バイオマスや風力発電等の新しい再生可能エネルギー分野へ事業展開を行います。

3カ年目標推移



事業成長 キーワード



対象会社

株式会社インターアクション
株式会社BIJ
株式会社エア・ガシズ・テクノス

▷▷ セグメント紹介 3. インダストリー4.0推進事業



事業テーマ

サービス産業の効率化をテーマに、IoT技術を用いた新システムの提供で
サービス産業の発展に貢献します。



事業内容

- プログラミング言語Rubyを用いたwebシステムの開発
- 3D特殊設計とモデリング事業
- IoTを活用したサービス事業（ホステル事業等）
- 液晶ディスプレイの製造過程で使用される精密除振装置の開発・設計・製造

成長ドライバー

IoT技術を活用したシステム開発支援と販売チャンネルの拡大

中国をはじめとする海外シェアの獲得に向けた、ディスプレイパネルメーカーの新規ユーザーへの取組み

3か年目標

	平成29年5月期	平成30年5月期	平成31年5月期
売上	1,491百万円	2,432百万円	3,441百万円
営業利益	188百万円	269百万円	356百万円

市場動向

- IPv6やNGNやIoT技術の進展、普及による、あらゆるデバイスのネットワーク化
- 高齢化、労働人口の減少による産業の自動化、スマート社会化（スマートグリッド、スマートシティ）
- ディスプレイデバイス市場において、有機ELが今後大幅に伸びる見込み
- 中国がディスプレイデバイス向けの工場建設や投資拡大を計画、生産能力は2018年に世界トップに成長する見込み



▷▷ セグメント紹介 3. インダストリー4.0推進事業



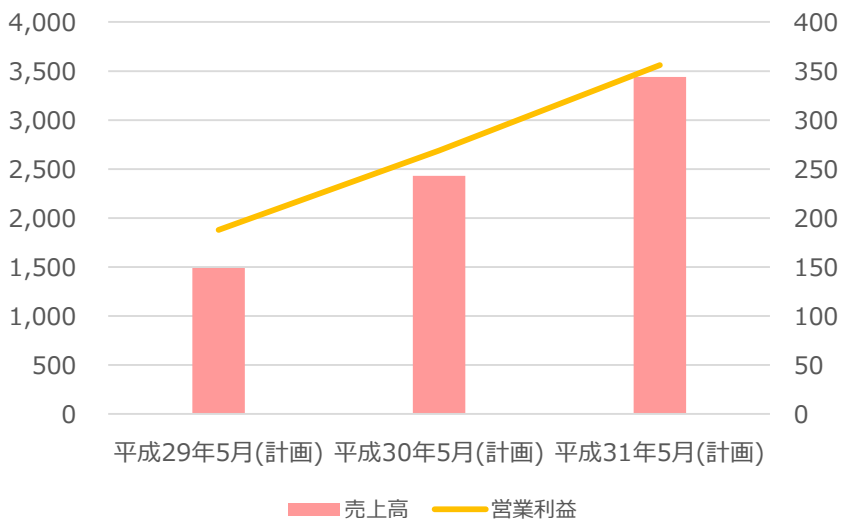
事業戦略

成長市場へのビジネス展開と、IoTビジネスとのシナジー効果を生み出して成長を図る、拡大戦略

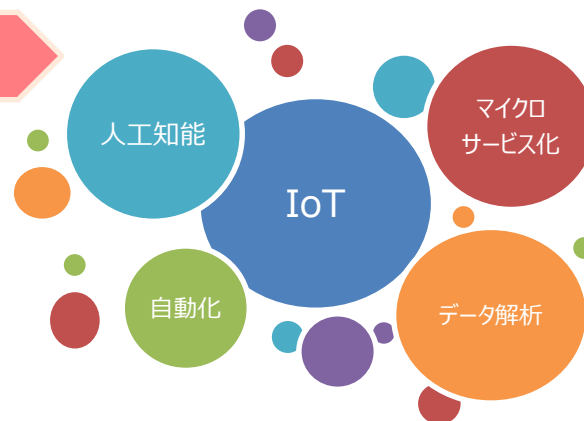
幅広い事業を扱うセグメントとして、社会の変化に柔軟に対応し、成長市場での事業展開の機会を掴みます。それにより、事業規模の拡大に伴う売上と利益の確保でグループ全体のさらなる成長を目指します。

1. Webアプリケーションの分野で広く利用されているプログラミング言語Rubyを強みとして、大手企業のWebシステムの受託開発のシェアを拡大し、自動運転のIoT分野での技術優位性の向上を目指します。
2. 3D特殊設計、モデリング事業を強化し、現場での打ち合わせや、試作コストを削減し、生産性の向上に貢献します。
3. 中国ディスプレイデバイス市場向けに精密除振装置の販売を強化、韓国の有機ELメーカーに対して市場開拓します。

3カ年目標推移



事業成長 キーワード



対象会社

株式会社インターアクション
株式会社BIJ
株式会社Cuon
明立精機株式会社

■ 積極的 M&A



- ・ 事業規模拡大のため、M&Aを中心とした積極的な投資を行います。
- ・ 新事業と既存事業のシナジー効果（相乗効果）により、既存製品や技術の特異性を増やしたり、既存の販路を広げます。
- ・ 当社主要事業の位置する半導体市場の浮き沈みに対して、製品や技術の多様化によりグループとして競争を勝ち抜きます。

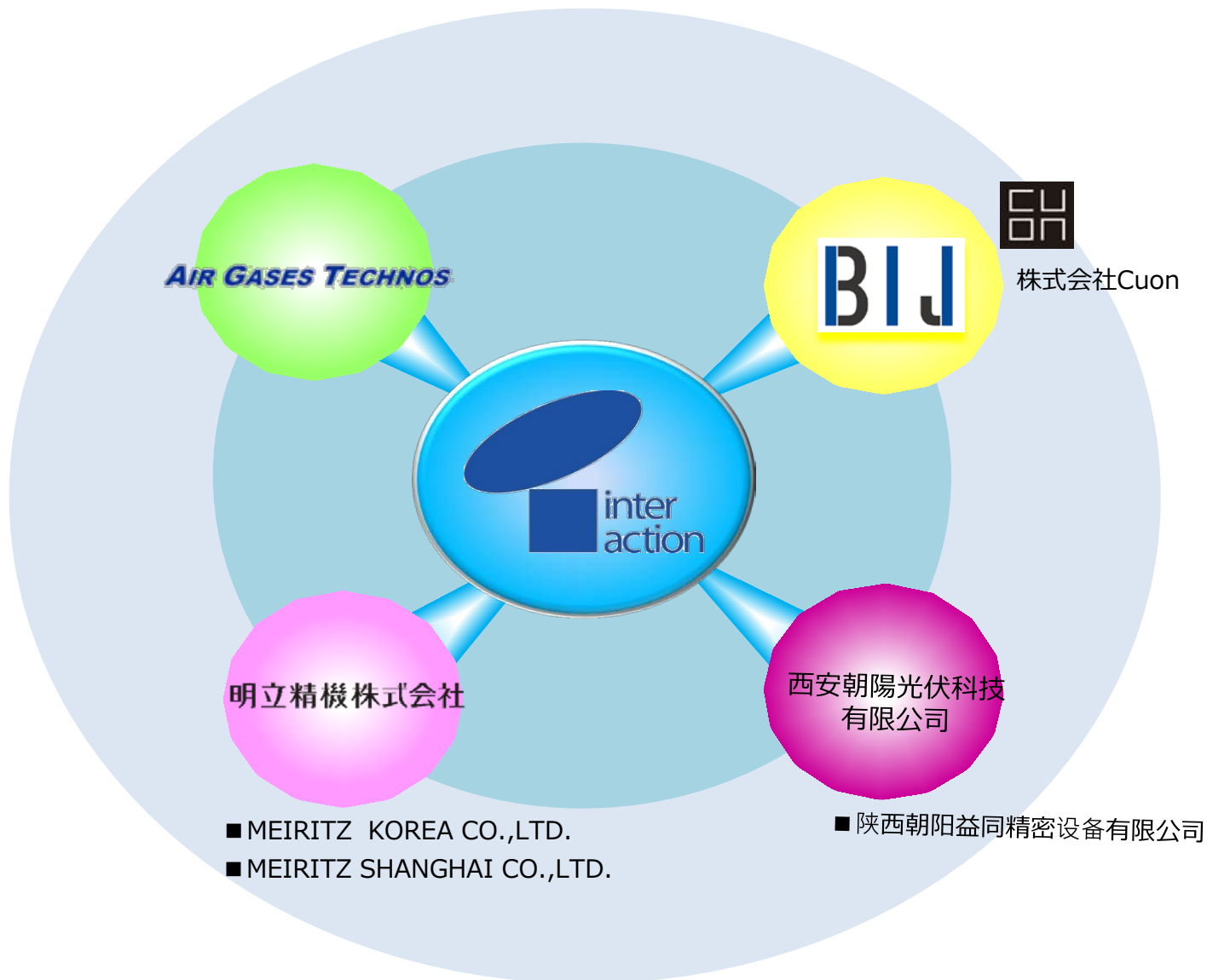
M&A 基準

- 1) 成長分野であるか、今後成長を見込める分野であるか
- 2) 現在まで培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であるか
- 3) 5年間の想定キャッシュ・フローをWACC（加重平均資本コスト）で割り引いたNPV（正味現在価値）がプラスであるか

事業撤退 基準

ROIC - WACC = マイナスとなる事業は撤退を検討！

▷▷ インターアクショングループ図



将来の事象に関する記述についての注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。

これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。